

道をつくり、辻がための警衛ものゝふの陪臣に仰て所々をわかちあてらる、凡此度の大營には天が下の大小名をもめしあつめてこそ行はせ給べかりしを、もとよりも儉約を用ひ奢侈をいたしましめ、萬民のつひえをおぼしやらせ給ひしかば、かねて國々よりの參勤はとゞめ給ひ、たゞ御重代の大名都近き分國の人々計を召れける、前二三日の程より、見物の輩思ひくの支度をかまへ、あるひは堀川のほとりに棧敷をかきならべ、あるひはかせくの蔀格子さし離ちて、錦繡のとばり繪かけるすだれをかけ、晴をわたして飾あへり、洛中の貴賤、遠境の道俗、十七日の暮かけて夜もすがら行つて、家居にもれし輩は、こゝの辻かしこの軒の下端まで、尺地もあらず充满ちて、東雲の空も明行ば、警固の衛士辻々をかため、二條の御所より郁芳門の砌まで、十餘町のほど大路の左右につらなり、往還をたゞし、非常をいましむ、朝まだきよりそゝぎし雨もやゝ晴て、辰の一てむより御物の具をぞ送られけり、

長櫃	百六拾掉	四方行器	十荷
御屏風箱	三十雙	御簾箱	一對
御几帳箱	二荷	御幕箱	三
御長鬢箱	一	御丸行器	十荷
御小行器	五荷	御膳行器	二荷
御辨當	五荷	御葛籠	十荷
御挾箱	一荷	御擔	二十荷
御長櫃	一	御琴箱	三
廿一代集箱	一	御黒棚	一
御厨子棚	一	御貝桶	一